

# I 全体概要

## I 調査の概要

(1) 調査実施日 令和6年4月18日(木)

(2) 調査内容(教科、質問紙調査)

- ① 教科 小学校 国語(45分) 算数(45分) 中学校 国語(50分) 数学(50分)
- ② 質問紙 児童生徒質問紙調査 学校質問紙調査

(3) 参加公立学校数

小学校参加校数 本県 248校(全国 18,466校)

中学校参加校数 本県 145校(全国 9,268校)

(4) 参加児童生徒数

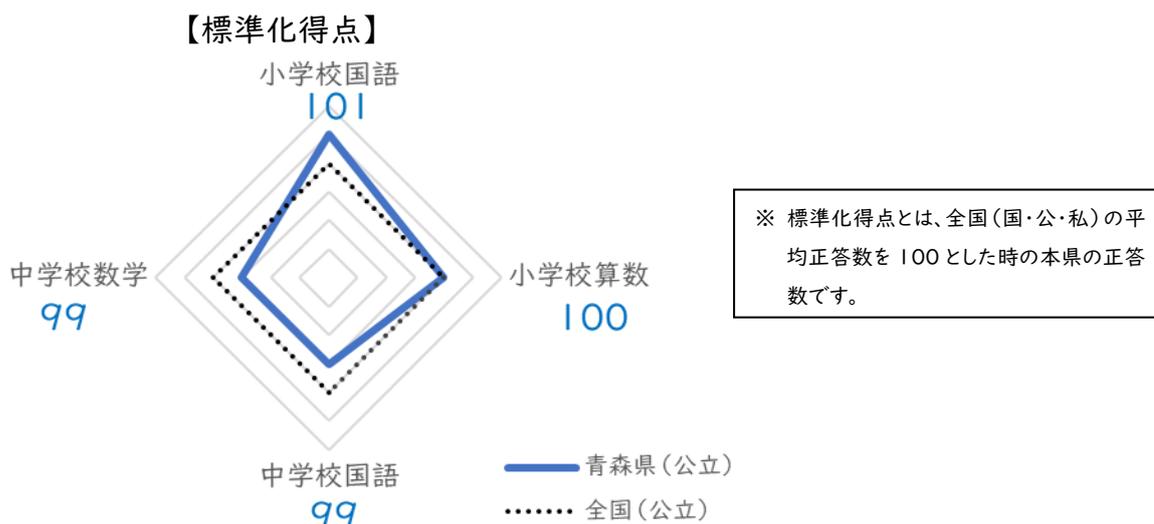
小学校児童数 本県 8,174名【国語】(全国 947,364名)  
8,172名【算数】(全国 947,579名)

中学校生徒数 本県 7,986名【国語】(全国 875,574名)  
7,992名【数学】(全国 875,952名)

## 2 教科ごとの状況

○平均正答数及び平均正答率、標準化得点

	【平均正答数】		【平均正答率%】	
	青森県(公立)	全国(公立)	青森県(公立)	全国(公立)
小学校国語	9.8	9.5	70	67.7
小学校算数	10.3	10.1	64	63.4
中学校国語	8.5	8.7	56	58.1
中学校数学	8.1	8.4	50	52.5



・本県公立小・中学校の国語及び算数・数学の平均正答数及び平均正答率は、小学校において全国平均を上回り、中学校において全国平均を下回った。また、全国平均との差については、平均正答数で本県は±0.3程度の差が見られる。

・標準化得点において、全国の平均正答数と比べると、本県は±1程度の差が見られる。

○県教育委員会としては、今回の調査結果を全国平均程度と捉えている。

※○印は県教育委員会の考えを示している。以下同様の扱いとしている。

### 3 平均正答率及び標準化得点の推移

	小学校					
	国語			算数		
	本県の平均正答率	本県の平均正答率と全国との差	標準化得点	本県の平均正答率	本県の平均正答率と全国との差	標準化得点
R6	70	2.3	101	64	0.6	100
R5	70	2.8	101	63	0.5	100
R4	68	2.4	101	63	-0.2	100
R3	69	4.3	102	71	0.8	100

	中学校					
	国語			数学		
	本県の平均正答率	本県の平均正答率と全国との差	標準化得点	本県の平均正答率	本県の平均正答率と全国との差	標準化得点
R6	56	-2.1	99	50	-2.5	99
R5	70	0.2	100	49	-2.0	99
R4	69	0	100	52	0.6	100
R3	66	1.4	100	56	-1.2	99

※標準化得点は、全国(国・公・私)の平均正答数を100とした時の本県の正答数を、国が作成した「標準化得点」のファイルを活用し算出したものである。調査問題は毎年異なり、平均正答率を年度間で単純比較することはできないため、標準化得点を算出することで、過去の調査結果との相対的な比較ができるようにしている。

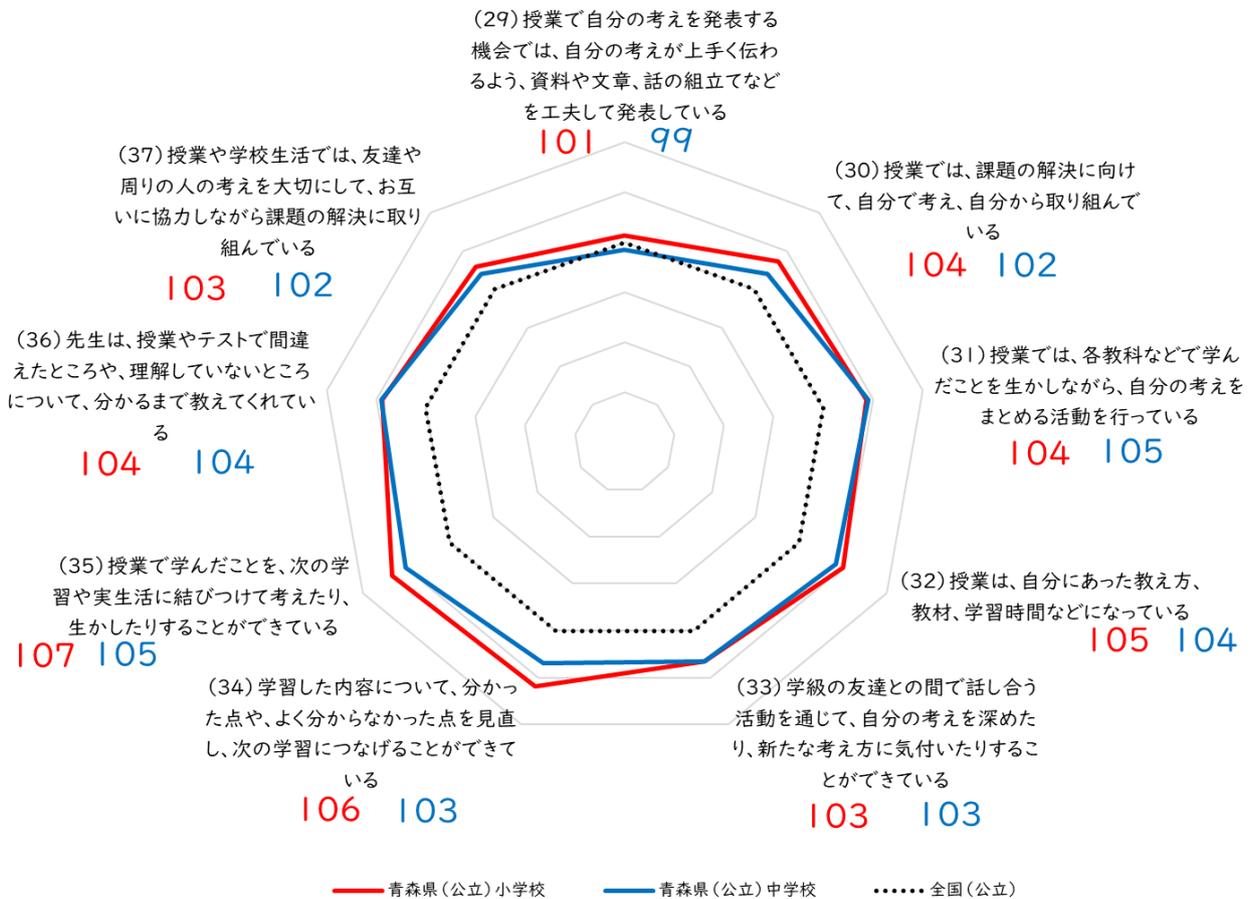
- ・小学校の標準化得点を見ると、国語及び算数は全国と比べて、同等かやや上回っている状態であるといえる。しかし、国語では平均正答率における全国との差が少なくなっている。
- ・中学校の標準化得点を見ると、国語及び数学は全国と比べて、やや下回っている状態であるといえる。国語及び数学では、令和3年度以降、平均正答率における全国との差が最も大きくなっている。
- ・青色で囲んでいる令和3年度小学校と令和6年度中学校は、同一の児童生徒である。比べると、中学校国語では標準化得点で3下がっており、数学では1下がっている。

○本調査により測定できるのは学力の特定の一部であることから、各校においては、平均正答率の高低のみに注目するのではなく、自校の結果を丁寧に分析し、学習指導上の課題を明らかにするとともに、その改善に向けて学校全体で取り組むことを期待している。

## 4 質問紙調査結果(本県の重要課題事項)

### (1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

#### ① 児童生徒質問紙調査



※数値は全国(公立)を100とした時の青森県(公立)小学校及び中学校である。本県の肯定的回答数÷全国の肯定的回答数×100で計算している

- ・小・中学校ともに、(35)「授業で学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができている」と実感している割合が全国と比較して高くなっている。一方、(29)「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と実感している割合が相対的に低い状況となっている。
- ・(34)「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と実感している割合が小学校の方が高い状況である。

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について、本県小・中学校は全国よりほぼ上回っていることから、授業改善が推し進められていると考えられる。

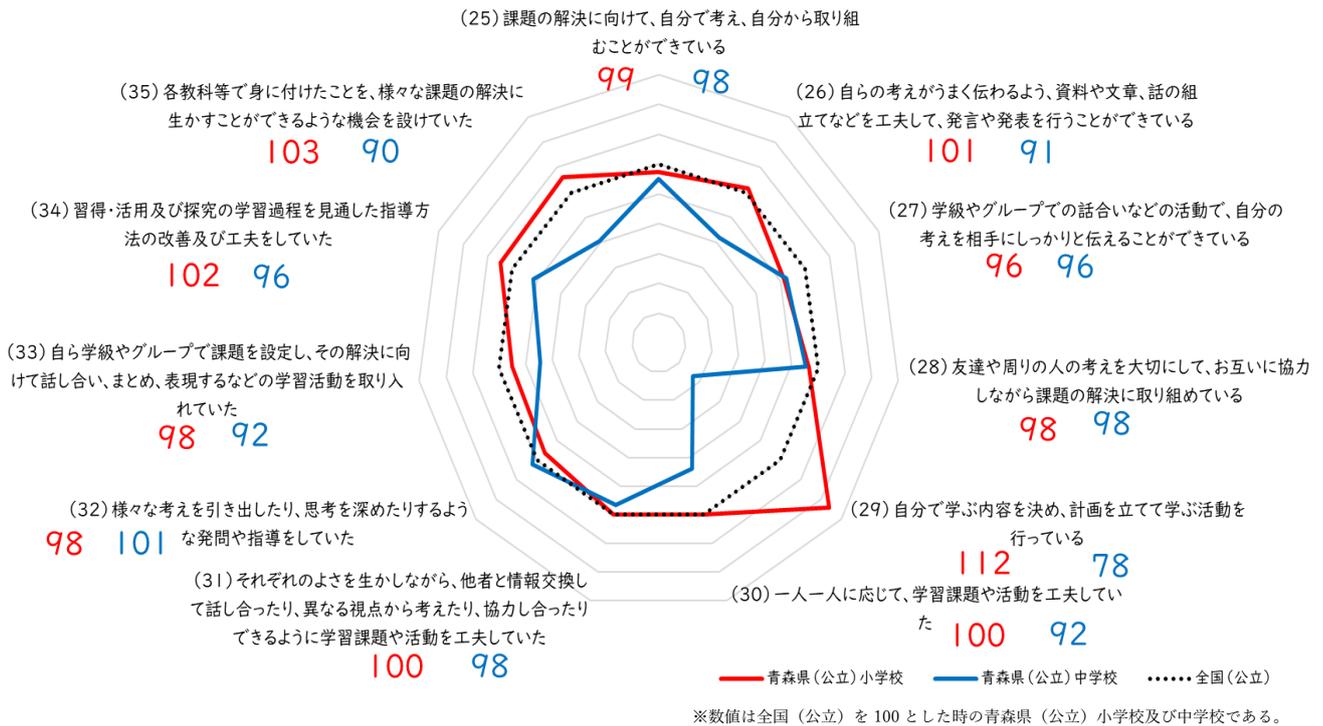
☆以下の回答をしている児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

※右表の○印

- ・(29)「自分の考えを発表する機会では、自分の考えが上手く伝わるよう、工夫して発表している」
- ・(30)「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」
- ・(31)「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている」
- ・(34)「分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている」

全国		本県	
小	中	小	中
○	○		
○	○	○	○
	○		
			○

## ②学校質問紙調査



- ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について、学校質問紙調査では全国平均を下回っている項目が多く見られる。
- ・小学校では(29)「自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている」、中学校では(32)「様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしていた」が全国平均を上回っている。一方、小・中学校ともに自ら課題を設定し、話し合い、まとめる活動や発表に関する活動で全国平均を下回っている項目が見られる。
- ・(29)「自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っている」と実感している割合が、小学校と中学校で差が大きく開いている。

○児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査を比べると、各学校の回答以上に児童生徒は肯定的に捉えていると考えられる。そのために、各校の課題を踏まえ、校内研修等を通して、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組むことが大切である。

☆以下の回答をしている学校の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

- ・(25)「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている」
- ・(26)「自らの考えがうまく伝わるよう、工夫して発言や発表を行うことができている」
- ・(27)「話し合い活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている」
- ・(28)「周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」
- ・(30)「一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫していた」
- ・(31)「他者と情報交換したり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできる学習課題や活動を工夫していた」
- ・(33)「自ら課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れていた」

全国		本県	
小	中	小	中
0	0	0	0
0	0	0	
0	0	0	0
	0	0	
		0	
		0	